



地球の自転方向を考えればあり得ない出題ミス 学習指導要領しか読まないから？

今年の高校入試の社会科の問題にミスがあったと報じられました。地理分野にはよくある時差を問う問題です。日本企業の海外各都市での営業時間を計算させるという、いかにも学習指導要領の「グローバル化」「活用」などを意識した「力作」

問題のグラフを一目すれば、東京よりモスクワの方が時刻が先に進んでいるという誤りに気づくはず。地球が西から東に自転し、太平洋上の日付変更線から西に向かつて時刻が進行していくという「基本中の基本」を理解していればわかることです。それを「足し算引き算」の問題にするのは、原理をないが

退職を前に

池田(宮下) 幸子
真駒内養護学校分会

初任校で鉄筆とガリ版を賣って、早いもので40年が経つ。そのT校は、随分前に廃校になったが、私の『教育の原点』になった。当時の先輩は、20歳の私を教育者として一人前になるように、休日も様々な研究会や組合活動の場へ同行させてくれた。正直、諸先輩の話は難しく、仕方がなく付いて行ったこともあるが、今ではそれが肥やしになり、根っこになったと思う。諸先輩達に大感謝。

Y校では、学校と病院が廊下で繋がり、他校ではまだ併設されていない高等部が先行して設置されていたことに驚いた。また、転動した当時は、在籍中に亡くなる生徒も少なくなく、生きることの難しさや命の大切さを目の当たりにし、教師として転機となった。その後、B校で、高等部進学を希望する保護者や子どもたちと出会い、「希望するすべての子を高等部へ『春風』の会」を結成。難航したが、9年目にして、ようやく併設の高等部が実現することができた。



最後に、子どもたちや様々な人たちの出会いに感謝したい。

はばたき

道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

異常に低い道立学校の再任用率に低下の道教委は早急に対策を講ずべき

3月9日、ほとんどの学校で人事内示が行われました。その詳細は明らかにしていませんが、高教組札幌支部は特に深刻になっている再任用の状況について、石狩管内の高校について独自に集計を行いました。その速報値をお知らせします。

今年度の定年退職者全体に占める再任用の割合は50%を割り込み、昨年(約60%)より低下していると思われる。定年退職者のうち、再任用を希望した人がどのくらいいるかは、道教委がまだ明らかにしないため不明ですが、近年の再任用の状況をみて、「親の介護で札幌から離れるわけにはいかないから」「持病の通院のため」などの理由で最初から再任用を希望しなかったり、希望しても遠隔地しか提示されず、「辞退」を余儀なくされた方が相当数いるものと思われる。また、どうしても再任用しなければならぬ事情から、オホーツクや十勝への単身赴任を断せざる

るをえなかった人もいます。道教委は、そうした実態をブランクボックスの中に閉じ込めず明らかにすべきです。

今年の定年退職から年金一部支給開始まで3年となり、再任用を継続せざるをえない人が増えることは当然です。すでに退職して再任用している方の再任用継続率もやや低下(80%前後)しています。

この先も再任用対象者はさらに増加せざるをえません。抜本的な解決策としては再任用を定数外にする以外にありませんが、善後策として文科省通知(H25.4.4)は「各都道府県教育委員会において、短時間勤務(ハーフなど)再任用教職員について

は・・・標準定数に換算するかどうかは判断されたい」と定数外とすることができるとの見解を示しています。しかし道教委は、こうした措置も活用せず、例年通り「一般人事と同様」の再任用人事をおこなったものと思われる。一般人事と同様というなら、1年ごとに職場が変わる人事などありません。

そもそも再任用制度は、年金支給開始年齢が引き上げられていることで、「雇用と年金の接続」をはかるために導入された制度で、雇用する側にとつては「義務」であり、雇用される側にとつては「権利」と言えるものです。現に道庁をはじめ多くの公務職場では、「希望すればほぼ確実に再任用される」状況にあり、他県の学校でも同様です。しかし、私たちが働く道立学校だけが、全国的にみても異常に低い再任用率になっており、道教委の責任が厳しく問われる状況が続いています。

「雇用と年金の接続」を確実にするためのには、現在の再任用制度に矛盾があることは明らかであり、そのためには

「さようなら原発1000万人アクション北海道」実行委員会は、11日、「フクシマを忘れない・・・道集会」を札幌市内かでの2・7を会場に行いました。この集会には、高教組員も含めて、ロビーマデあふれる700名以上の市民が参加しました。集会では、北大名誉教授の小野有五さんから「泊原発再稼働させない8つの理由」と題した講演がありました。

た。その理由とは、①泊原発無しても電力は足りている、②原発のコストはこんなに高かった、③過度な原発依存から脱却した経営の変革が必要、④泊原発敷地内には「活断層」・北電の説明には、根本的な誤りがある、⑤積丹半島海岸地形は「地震性隆起」、⑥ニセコ火山群からの火砕流も、⑦事故の時、ホントに避難できますか？札幌は風下だ、⑧危険な核のゴミ、10万年も管理できますか？等々、とても説得力のあるお話でした。集会の後、参加者は大通西4まで、デモパレードをし、「さようなら原発」の思いを市民にアピールしました。

ようこそ 札幌支部へ

2018 支部大歓迎会

今年企画は面白い!

転入された方 高教組員以外の方 青年教職員のみぞさん是非ご参加ください!

明日から使える 授業づくり・学報づくりに役立つ「小ネタ」がたくさん!!

生徒を引きつける一発ピンゴ、レクや集団あどび体験も

食べて・飲んで・歌って楽しく語らしましょう!

2018年4月7日(土) 18:00~ センター4階大会議室 (16:00~分会代表者会議、終了後行います)

北海道高教組 札幌支部 (中央区大通西12丁目 高等学校教職員センター3階 TEL 011-271-5875)

しろにした操作主義です。学習指導要領にあわせて、いかにも「新しい問題」を作成したことを示したかったのでしょが、そこには「子どもが地球の自転との関係で時差をどう理解するか」という視点が欠如し

ています。今回の出題ミスは、学習指導要領を金科玉条にして、子どもの視点を忘れた教育の姿を象徴しているようにも思えます。

教職員のみなさんへのアピール

高教組がとりくむ課題は、あなたの課題でもあるのではないのでしょうか？
ともに、子どもたちが大切にされる学校・働きやすい職場づくりをすすめてみましょう！

今、皆さんが職場で感じている問題意識は何でしょう？
学校によって事情はさまざまですが、超多忙な働き方や退職金の削減など労働条件の改悪、学校の裁量権を奪う上意下達の学校運営など、「もっと他にやるべきことがあるはず！」と政府や道教委に日々憤りを感じている人がほとんどではないでしょうか。道教委が実施している『ストレスチェック』そのものがストレス」という笑えない現実に向き合っていますか？

皆さんの学校の職員会議は活発ですか？「どうせ意見を言っても何も変わらないから」と無風の会議の職場が多いとも言われています。たとえ多くの教職員がさまざまな角度から意見を述べても、結局は管理職の意向の通りの結論に終わる。何も言わないのと同じ会議になっていませんか。私たち教職員の仕事は本来、創造的でやりがいのある仕事のはずです。「主体的・対話的で深い学び」は生徒だけでなく、私たち教職員にも必要とされているのではないのでしょうか。

今、職場が抱えている問題は多岐にわたり、私たち高教組の中でもまだまだ論議の最中の課題は多くあります。例えば何を業務削減の対象とするか。部活動か、分掌の仕事か。勤務時間の把握方法はどのような手段が良いか。焦眉の課題です。

しかし、私たちは、個人の意見が通らないからこそ、それをまとめる組合を作ったのです。「おかしい」と思っていることを改善するため、知らねばならないことを学ぶため、一人では身動きできない現実を打開するためです。

今、高教組は人数が減ってきて、教育行政が職場にかける圧力が強まっています。高教組はそんな皆さんの「思い」を持ち寄り活発に討議し、練り上げ、明らかな不条理に対抗する労働組合です。自分たちと、教え子たちも含めた日本の働く人々の生活を守るため、よい教育を行うため、そして、その前提となる平和と民主主義を守るために活動することを目的としています。

今、吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』の漫画版が爆発的に売れているといえます。なぜでしょうか？その一節に貧困問題をとりあげ、「世の中は働く人々によって支えられている」とおじさんがコペル君に教え、「学問を修め、人類がまだ解決できていない問題のために力を尽くすべき」と語る場面があります。

今の日本と世界はどうでしょう？今年中にも憲法9条の改憲発議が狙われています。1952年に高知の中学教員だった竹本源治が発表した「戦死せる教え児よ」という一文をご存じでしょうか。私たちが大切にしている「教え子を再び戦場に送るな」というスローガンの原点です。その冒頭「逝いて還らぬ教え児よ 私の手は血まみれだ！ 君を 縊くひ縊ったその綱の端を私も持っていた。しかも人の子の師の名において」と、教育が戦争に利用されたことへの痛苦の思いを吐露しています。今、改憲の動きを黙って見ていることができるでしょうか。

高教組がとりくむ課題は組合だけのものではありません。あなたの課題でもあるのではないのでしょうか？
あなたの高教組への加入を心からよびかけます。

2018年2月17日

道高教組札幌支部 第79回定期大会

道高教組本部第120回・札幌支部第79回定期大会ダイジェスト 教育・働き方・憲法について、「主体的・対話的で深く」学び合った大会



高教組は分会からの代議員によって構成される支部大会と、支部が選出した代議員による本部大会で活動方針と役員を決定し活動しています。札幌支部定期大会、本部定期大会が、この間、相次いでひらかれました。その様子を紹介します。

2月17日に札幌支部定期大会が行われ、9時まで帰れない人がいる過密労働の実態が報告された。たほか、ようやく、それを見直す動きが起きてきた学校の様子や、粘り強く職場新聞を発行し続け、若い人の視点を大事にして記事を書いている奮闘の様子も語られました。

また、特別支援学校からは、校舎の狭隘化・老朽化が一層進行している実態や、厳罰主義が持ち込まれつつあることへの危機感も語られました。

大会終了後には、今年度で退職する組合員を「囲む集い」が催され、お酒も入って楽しく歓談しながら、退職者の経験談と熱い思いに聞き入りました。

3月3・4日の2日間にわたってひらかれた本部定期大会は、前日の暴風雪による交通障害で道東方面から参加する代議員の大半が到着できなかった中での開催となりました。なかには十勝から車で9時間以上かけて1日目の日程終了後に駆けつけた代議員もいました。

大会の討論は、「卒業を前にした生徒たちに高校生活の思い出を綴らせると、部活が大半とこたえ、授業での学びを思い出すと生徒はいなかった。なぜか？」という問いかけや、「学習指導要領を乗り越えるという方針を具体的にすすめるために何が必要か？」という問題提起、事務職員部からは「未納生徒の



ことを先生方に相談すると『それは事務の問題でしょ』という反応はかつてはなかった。組合員の減少傾向が影響している」という厳しい指摘も出されました。

また、教職員の働き方に関しても活発な討議が行われ、再任用制度の矛盾を告発する発言や、免許更新制の影響で産休代替が見つけにくくなっている実態が報告されました。2日目の討論では、20代30代の若い代議員が、みずからの組合加入の理由や、もっと若い仲間とつながりたいという思いを熱く語りました。

大会は新しい執行部を選出し、最後に尾張新委員長(有朋高校)の団結カンパロウで決意を固めました。

なお、今大会をもって、長年札幌支部・本部の専任役員として活躍を支えてきた柳井二さんが退任し、北村亮一さんがその後任に選出されました。

女性部長	実習教員部長	現業職員部長	定通部長	障児学校部長	青年部長	養護教員部長	事務職員部長	会計監査委員	中央委員	手稲養護	丘珠	丸山	稔
琴工	石渡和広	角谷哲司	鈴木孝幸	小林勢子	小笠原洋志	千歳	小馬谷生実	南陽子	伊藤政伸	鈴木克幸	桑原岳夫		
支部長	副支部長	書記長	書記次長	執行委員	白石	道端剛樹	北村亮一	丸山稔	野上徹哉	熊木啓二	野村健治	桑原岳夫	手稲養護
石狩南	石狩北	有朋	伏見	南陵	札幌	稲雲	福士直尚	伊藤仁志	平井拓	谷代晃子	木村栄二朗	三瓶裕之	高橋理恵
赤石真人	中野誓	酒井伸一	西島智子	新篠津高養	北広西	惠庭南	惠庭北	石狩翔陽	有朋	東陵	角谷哲司	鈴木孝幸	小林勢子
小笠原洋志	千歳	小馬谷生実	南陽子	伊藤政伸	鈴木克幸	桑原岳夫							

